

◆昭和40年度現地調査の実施

訪 問 国 名	氏 名	現 職	渡 航 目 的	期 間
フィリピン、インド、 パキスタン、マレー シア、台湾、タイ、 香港	鈴木 長 年	アジア経済研究所 長期成長調査室	「エカフェ工業化会議」出席 および「アジア諸国の工業化 と域内協力」に関する現地調 査	昭和40年12月4日から 同 41年1月27日まで
台湾、フィリピン、 タイ、カンボジア、 インド、パキスタン	上 田 涼 一	アジア経済研究所 統計部統計課長	「アジア地域の農業統計」に 関する現地調査	昭和40年12月16日から 同 41年1月24日まで
台湾、タイ、パキス タン、インド、香港	笹 本 武 治	アジア経済研究所 調査研究部長	「東南アジア諸国の産業開発」 に関する現地調査	昭和41年1月2日から 同 41年2月20日まで

◆主な人事異動

図書資料部参事 坂田善三郎
「鉄鉱資源」に関する現地調査のためフィリピンほか6
カ国に出張を命ずる

昭和40年11月22日付け
John Robertson McEwan

調査業務部編集第2課勤務を命ずる

昭和40年10月1日付け

総務部参事 恒 川 敬 一
就業規程第21条第1項第3号の規定に基づき休職を命ず
る

昭和40年12月1日付け

統計部統計課長 上 田 涼 一
アジア地域の農業統計に関する現地調査のため台湾ほか
5カ国へ出張を命ずる

統計部長 大 泉 悦 郎
統計部統計課長上田涼一海外出張中統計部統計課長事務
取扱を命ずる

以上昭和40年12月16日付け

◆国際協力研究会議の発足

1. 当研究所は、低開発諸国の開発問題についての研
究成果を基礎にして南北問題の基本的課題とこれに対す
る国際協力のあり方を討議するため、国際協力研究会議
を発足させた。

2. この会議の議長には所長東畑精一をあて、委員は
研究所の役職員ならびに外部の学識経験者をもって構成
する。

3. 会議の開催状況は、つぎのとおりである。

第1回 日時 昭和40年9月15日(水)
場所 当研究所 役員会議室
議題 「外国援助と経済発展」(大来佐武郎
委員報告)

第2回 日時 昭和40年10月27日(水)
場所 当研究所 役員会議室
議題 「経済開発の戦略試論」(川野重任委
員報告)

第3回 日時 昭和40年11月22日(月)
場所 当研究所 役員会議室
議題 「インド第3次5カ年計画の反省と

第4次5カ年計画における戦略的局
面——とくに農業開発について」(元
デリー大学長 Dr. V. K. R. V. Rao
とパネル・ディスカッション)

第4回 日時 昭和40年12月15日(水)

場所 当研究所 役員会議室

議題 「日本の経済協力の問題点」(海外経
済協力基金理事) 柿坪精吾氏報告

◆外国人の来訪

- 12月1日、ルーマニア大使官3等書記館 Alexandru
Iacobescu 氏が当研究所の活動状況聴取のため来訪
した。
- 12月3日、1965年度第1回コロンボ・プラン農協
コース研修生 V. H. Parekh 氏(インド)ほか9名
が来訪、当研究所の活動状況について山内調査業務
部次長その他と懇談した。
- 12月21日、高麗大学校教授、アジア問題研究所副
所長金俊煥氏が来訪し、資料交換、共同研究、研究
員交換などについて津田調査業務部長その他と意見
を交換した。

◆在外職員の動き

帰 国

氏 名	研 究 課 題	派 遣 地	帰国日
高橋 彰	フィリピン農村の社会 経済構造——賃労働 の形成を中心とし て	マニラ ニュー・デリー	12月13日
藤森英男	重要産業発展の経営 経済的基盤	マニラ	12月13日
高橋 保	カンボジア社会・経 済の近代化とその諸 条件	プノンペン	12月14日

◆出版案内(12月1日～12月28日発行)

- 研究参考資料第89集
海外電力調査会編『フィリピン、インドネシアの電
力事情』
- 英文機関誌 *The Developing Economies* (Vol.
III, No. 4)